

第74次印旛地区教育研集会
(社会科教育・中学校)

当事者意識に基づく主体的・対話的で深い学びの実現

～危機感を契機に当事者意識を芽生えさせる取組の考察～



四街道市立千代田中学校
鈴木健之

1. 研究主題

当事者意識に基づく主体的・対話的で深い学びの実現
～危機感を契機に当事者意識を芽生えさせる取組の考察～

2. 主題設定の理由

(1) 学習指導要領より

中学校学習指導要領(平成29年3月告示)では、総則第3の1において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善についての配慮事項(1)の中で次のように述べられている。「各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」。このことから、社会科の特質であり、中学校学習指導要領第二節社会の第1目標(2)に書かれている「社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論する力を養う」ことが社会科の授業を通じて主体的・対話的で深い学びの実現を目指すうえで大切であるといえる。社会的な事象を自分事として捉えることで当事者・主権者としての自覚が生まれ、意欲をもって自ら思考活動や表現活動に取り組むことができるであろう。

中学校学習指導要領解説—社会編—(平成29年7月告示)では、総説改訂の趣旨及び要点④学習指導の改善充実等の中で示されている(2)③学習・指導の改善充実や教室環境の充実等 i)「主体的・対話的で深い学び」の実現(「主体的な学び」の視点)において、「主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視する…」となっている。また、「(「深い学び」の視点)において「社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として社会的な事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる」となっている。つまり、深い学びを実現するためには合意形成や社会参画につなげることを念頭に置き、課題解決に向けて主体的に取り組むための動機付けや方向付けの工夫が重要となる。

(2) 印教研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

印教研社会科研究部では主題設定の理由(1)に「社会の形成者としての力を培うことは社会科の本来の使命である」と述べられており、(2)に「児童生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力を培うことはこれからの社会の急激な変化に対応するために必要なことだと考える。」とあり、(3)には「単なる知識・技能の習得だけでなく、社会で生かせる力の育成が各所で課題として挙げられている。児童生徒には、「生きる力」を培う基礎として、社会的・歴史的な事実をもとに調べ、考え、まとめ、表現する力の向上が求められている。」とある。そしてこの主題設定の根拠の中のまとめとして「学んだことを実生活や実社会において、どのように生かすことができるのか、自分にも関わることがあるのではないかと考え続けることができる児童生徒の育成を目指している。」という文言がある。つまり、基礎学力の習得と並行して、得た知識を活用し社会参画を果たせるようになることを目標に設定し、その目標を達成するためにも自ら課題を見だし、自らの考えを表現する習慣をつけることが重要である。本研究でもこれらの印教研社会科研究部の研究主題と根拠を踏まえて主題を設定した。

(3) 生徒の実態より

本校は四街道市の千代田団地内にあり、今年度で開校50周年を迎えた。全校生徒人(全17学級、特別支援学級等含む)で構成されている。学区には開校当時から存在する千代田団地と、近年になり開発が進むもねの里があり、古くからこの土地に住む家庭と他の地域から移り住んできた家庭が約半数ずつ混在している。

本校は誠実に学習に向かう生徒が多く、普通の授業においても、教員や級友の話に耳を傾けてノートを熱心で作成している生徒がほとんどで、自身にとって一番覚えやすい工夫をこらしたノートに仕上げている。しかし、知識を問う発問には積極的に挙手する生徒が多い一方、事象の原因を問うものや、自らの立場から考える発問に対しては消極的で、思考すること自体に前向きになれない生徒が目立つ。また、仲間やリーダーへの協力を惜しまない一方で、自らが先頭に立って判断し行動する生徒は限られている。行事のリーダーや評議員に立候補する生徒、授業中に挙手する生徒が少なく、自分の考えや行動に自信を持たず、指示待ちをしてしまう様子が見受けられる。本校の今年度の研究主題は「基礎学力の向上及び課題解決に必要な資質・能力を育む授業の実践」である。日頃の学校生活に加えて社会科の授業においても生徒が自分の意見を持って主体的に課題解決に向かう姿勢を養いたい。

前述した傾向は、社会科学習においても如実に表れている。社会科学習(特に歴史的分野)に興味や関心を抱く生徒(アンケートA1及びA2)が多く、授業に集中できていると自己評価する生徒(アンケートA3)も多い。特筆すべきはまだアンケートを実施した時点では学習していない公民的分野に対しても学習することを「楽しみ」、「どちらかといえば楽しみ」と回答した生徒が101名(79.5%)もいる点である。このことから知識欲が高く、学習に対する意欲を持ちながら授業に臨んでいることがわかる。

しかし一方で、グループ学習に魅力を感じる生徒やグループの話し合いに積極的に参加できていると感じている生徒の割合(アンケートA5及びA6)は他の質問に比べて著しく低い。また、複数回答可の好きな学習活動に関するアンケート(A4)についても、過半数の生徒が「教科書や地図帳で調べる」と「板書を写したりノートを作ったりする」、「先生の説明を聞く」活動を好きと答えているが、「自分の考えを書く」は30.7%、「自分の考えを発表する」は18.1%にとどまっている。

以上の傾向を加味し、各単元においてペアやグループを用いた思考活動や身近な生活との関連性を持った例の提示等を通して、より主体的に社会的な事象を自分事として捉え、考えを巡らせる習慣を確立させ

る必要があると感じ、各分野、各単元のまとめあがる授業において、学習内容と身近な生活のつながりに着目したグループワークやロールプレイの実践を行っている。

社会科に対するアンケートA 令和5年4月実施 人数：3学年127名

A1 社会科に興味や関心がありますか？

- ① ある(61名) ② どちらかといえばある(35名)
③ どちらかといえばない(27名) ④ ない(4名)

A2 社会科のどの分野に一番興味がありますか？

- ① 地理(32名) ② 歴史(59名)
③ 公民(34名) ④ どの分野もない(2名)

A3 社会科の授業に集中できていますか？

- ① できている(82名) ② ほとんどできている(21名) ③ できていない時がある(17名)
④ ほとんどできていない(1名) ⑤ できてない(6名)

A4 好きな学習活動は何ですか？(複数活動可)

- ① 教科書や地図帳で調べる。(74名) ② 板書を写したりノートを作ったりする。(93名)
③ 先生の説明を聞く。(75名) ④ 自分の考えを書く。(39名)
⑤ 自分の考えを発表する。(23名) ⑥ 友達と意見を交換する。(67名)

A5 社会科のグループ学習は楽しいですか？

- ① 楽しい(34名) ② どちらかといえば楽しい(69名)
③ どちらかといえば楽しくない(11名) ④ 楽しくない(13名)

A6 社会科のグループでの話し合いには、積極的に参加できていますか？

- ① できている(16名) ② ほとんどできている(31名) ③ できていない時がある(27名)
④ ほとんどできていない(25名) ⑤ できていない(28名)

A7 まだ始まっていない公民分野を学習することが楽しみですか？

- ① 楽しみ(49名) ② どちらかといえば楽しみ(52名)
③ どちらかといえば楽しみではない(15名) ④ 楽しみではない(11名)

3. 研究目標

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けたツールとして危機感を出発点とした「当事者意識に基づく学習」を各分野で取り入れることにより、生徒自らが社会的事象に興味・関心を抱いて学びに向かうことができることを明らかにする。

4. 研究仮説と研究方法(手立て)

[仮説1]

「主体的・対話的で深い学び」実現のために、生徒が危機感をもつような社会的事象を取り入れることにより、具体的で実感を伴った当事者意識が芽生え、社会的事象に対する興味・関心が高まるだろう。

[手立て1]

事前にアンケートをとり、生徒が苦手と感じている単元や興味・関心があまりない単元を洗い出す。その内容を学習する際に、分野や単元の特徴に合わせて思考ツールの導入やロールプレイを行うことで、それまでより前向きに学習に向かうことができるだろう。

[手立て2]

過去2年間に渡って実践を行ってきた公民的分野の選挙について扱う単元において、若者の選挙離れに対する危機感をもたせる例示をきっかけに当事者意識を芽生えさせ、その後グループワークによる思考活動を取り入れる。実践後のワークシートの分析から、「この実践の前後での生徒の興味・関心の推移」と「過去2年間の実践結果」を比較し、「危機感をもつような例の提示」こそが生徒に当事者意識をもたせ、興味・関心を高めているという結果が出ると考える。

[仮説2]

身近な例の提示やロールプレイを用いることにより、どの単元においても、生徒が当事者意識をもつことができ、主体的・対話的で深い学びの実現につながるだろう。

[手立て1]

生徒が苦手と感じている単元や興味・関心があまりない単元を洗い出す。その内容を学習する際に、分野や単元の特徴に合わせて思考ツールの導入やロールプレイを行うことで、それまでより前向きに学習に向かうことができると考える。

[手立て2]

身近な例の提示をし易い公民的分野だけでなく、地理的分野や歴史的分野においても同様の手法で実践を行い、効果を検証する。どの単元においても身近な生活と結びつけられるようであれば「自分だったらこうする」や「自分だったらこう考える」ということを意見共有できる場を設定する。ここで立てた自らの考えを基に実際の取り組みや制度を学習することにより主体的・対話的で深い学びの実現につながると考える。

5. 仮説の検証

[仮説1]について

「主体的・対話的で深い学び」実現のために、生徒が危機感をもつような社会的事象を取り入れることにより、具体的で実感を伴った当事者意識が芽生え、社会的事象に対する興味・関心が高まるだろう。

本仮説を検証するにあたり、令和5年度に担当していた3学年の1学級で事前にアンケートをとり、生徒が苦手と感じている単元や興味・関心があまりない単元を洗い出した。なお、事前アンケート実施が9月のため、公民的分野に的をしぼったものとした。以下にアンケートBとして、その結果を記載する。

B1 社会科に興味や関心がありますか。

- ① ある (12名) ② どちらかといえばある (11名)
③ どちらかといえばない (8名) ④ ない (0名)

B2 公民的分野のどの単元に一番興味がありますか。

- ① 現代社会 (4名) ② 人権・憲法 (2名) ③ 裁判 (9名)
④ 政治 (0名) ⑤ 経済 (16名)

B2の回答理由

- ① 現代社会 ・身近な物事について知ることができるから
② 人権・憲法 ・歴史とのつながりが深いから
③ 裁判 ・裁判に興味があり、傍聴しに行きたいと思っているから
⑤ 経済 ・将来とても役に立つと思うから (特に企業や円の価値等)

B3 公民的分野のどの単元が一番苦手ですか。

- ① 現代社会 (0名) ② 人権・憲法 (7名) ③ 裁判 (1名)
④ 政治 (23名) ⑤ 経済 (0名)

B3の回答理由

- ② 人権・憲法 ・〇〇権が多く、覚えなくてはいけない単語が長いから
③ 裁判 ・裁判は将来の自分にあまり関係ないと思うから
④ 政治 ・政治について身近に感じるができないから

アンケートBより公民的分野の中で特に生徒が苦手意識を持っていた公民的分野の政治についての授業内で実践を行った。常々若者の選挙離れについて危機感をもっていたため、令和3年度と令和4年度の2年間、生徒の選挙への関心を高めるための実践を行ってきたが、思うような関心の高まりを得ることはできなかった。

1年目は、架空の候補者の政権公約を吟味し模擬投票を行った。生徒たちは真剣に取り組み、手応えのある実践となったが、事後調査において「選挙の際に政権公約にしっかり目を通そうと思う」という項目の割合は大幅に上昇したのに対し、「将来選挙に必ず行こうと思う」の項目はほとんど変動せず低いままであった。この結果から、政権公約を吟味し投票を行うことは、毎年本校で行われている生徒会本部役員選挙と同じ過程であるため、新しい視点や立場からの活動にならず、事前調査と事後調査に差異が生まれ

なかったのではないかと考察した。

この実態を踏まえ、2年目は、生徒がグループごとに立候補者となり、調べ学習を行い、自分自身の政権公約を考え政見放送を行った上で模擬投票を行った。この実践を行う際、まずは「どのような政権公約をつくれればこの学級内での選挙で当選することができるか」という視点で政権公約を考えさせた。政権公約を考える中で、選挙権をもつ投票者が若者しかいない学級での投票のため、当選するためには若者向けの政策を増やすべきであるということに気づくことに期待した。その気づきをもとに、「若者の投票率が高ければ、政権公約も若者向けのものが増える」や「現在の選挙では極端に若者の投票率が少ないため、若者向けの政権公約がほとんどなく、高齢者向けのものばかりになっている」等の考察に辿りつかせる。この考察から現在の選挙の課題を理解し、投票への意欲が高まると考えた。

しかし、政権公約の設定と政見放送の練習で精一杯になり、最後のまとめの時間が十分にとれず、この活動実践に対する生徒の印象がほぼ「自分で政権公約をつくって政見放送をした」ことのみになってしまい、「若者の投票率の増減によって政策自体が変化する」ことを理解した生徒が少なかった。そのため、1年目の実践と同様に、事後調査において「将来選挙に必ず行こうと思う」の項目はほとんど変動せず低いままであった。

このように2つの視点からの実践で成果が挙げられていなかったため、同じ単元で3年目の実践として危機感をもつような例示を用いた内容の授業を行うこととした。導入で投票率が低い原因及び投票率の低さによる若者への悪影響について提示し、その後個人及びグループごとに投票率の低下によって予想される影響についてダイヤモンドランキングを作成し、内容理解だけでなく、思考力や表現力を高め、現在の選挙の課題に気付くことで選挙の仕組みについて主体的に理解しようとする意欲につながり、政治への関心が高まることを期待した。今回の導入で扱う若者の選挙離れに危機感をもたせるための視点は「世論が反映されない」、「当選者の質が低くなる」、「若者向けの政策が減少する」の3点である。これらを「一票の格差」や「政治への無関心」等の従来の選挙課題に混ぜて提示し、ダイヤモンドランキングを作成した。その結果、特に「若者向けの政策が減少する」を頂点にする生徒が多く存在した。授業前は「選挙に行こうと思わない」と答えていた生徒が過半数を占めていたが、授業後にワークシートを見ると、複数人が「選挙に行こうと思う」という趣旨の記述をしていた。(資料編参照)

[仮説2]

身近な例の提示やロールプレイを用いることにより、どの単元においても、生徒が当事者意識をもつことができ、主体的・対話的で深い学びの実現につながるだろう。

仮説1の実践より、危機感を足がかりに当事者意識を持たせることによる興味・関心の高まりに一定の効果を感じたため、地理的分野及び歴史的分野のいくつかの単元においても同様の手法を用いて実践をおこなった。地理的分野では、現代から地形図以外のマップが消滅した場合を想定する「地形図オンリーで目的地までの最短ルート・最も疲れないルート探し」や、通学路のハザードマップを参照しながら家から学校までの通学路上の危険を回避する「通学シミュレーター」等の授業を行った。歴史的分野では、生徒が自らを大老になった当時の井伊直弼であると仮定して、開国を迫る欧米と尊王攘夷運動の高まりとの狭間で危機的状況にある中でロールプレイを行う「井伊直弼を救え」や、現在の日本で各家庭に参勤交代制度が適用されたらどうなるかロールプレイを行う「現代版参勤交代」といった授業を行った。

これらの実践はおおむね生徒から好評であり、地理的分野については定期テストにおいて例年より地形図の問題の正答率が高く、成果を得ることができた。しかし一方で、特に歴史的分野においてはロールプレイそのものが目的になってしまい、生徒も主体的・対話的な学びの実現よりも楽しむことが第一になってしまい、単元自体に対する学習意欲の高まりも感じ取ることができなかった。

6. 成果と課題

[成果]

- ・公民的分野、特に政治や地方自治の単元に関しては、生徒が苦手意識を持ちやすく、教員側から生活と結びついた身近な例を提示しやすいため、導入として非常に効果的であるといえる。実際選挙の実践では授業前に選挙に対して実施人数31名中「おそらく行かない(9名)」、「行こうと思わない(4名)」という割合であった学級で実践後は「おそらく行かない(1名)」、「行こうと思わない(1名)」まで減少し、「必ず行く(1名)」だったものが「必ず行く(23名)」まで増加した。もちろん一時的なものかもしれないが、少なくとも実践を通して生徒たちの中に当事者意識が生まれ、社会参画に対しての意識も改善されたといえる。
- ・興味・関心を高めるための「見いだす」学習として、身近な例の提示や簡単なロールプレイの実施による当事者意識の向上を目指す取り組みは効率的である。3年間続けた選挙の実践において、初年度の模擬投票が2時間構成、2年目の政見放送に至っては調べ学習も含めて4時間構成となっており、この実践のみで多くの時間を費やしてしまっていた。しかし今回の実践では1時間構成で、なおかつ事後アンケートの結果も以前の2つより成果が感じられるものとなった。短時間で生徒の意欲を高めることで、次時以降の授業に余裕が生まれ、生徒の興味・関心が高い状況で知識及び技能の定着を図ることができる。以上の分析より、適切だと思われる単元では積極的に当事者意識の向上を目標とした活動を取り入れ、基礎的・基本的な学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」の両立を試みていきたい。

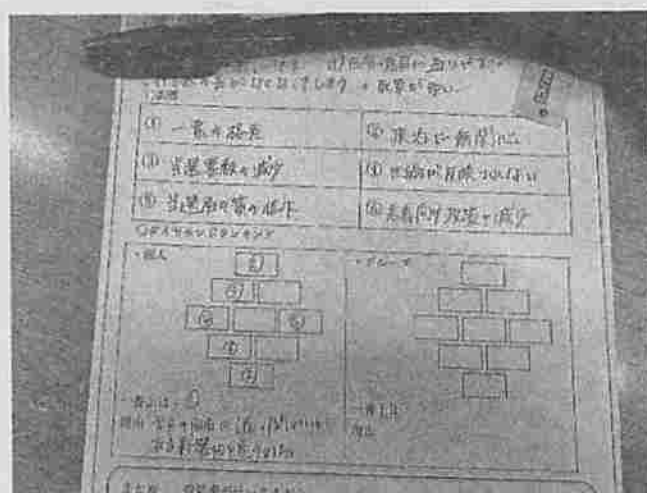
[課題]

- ・公民的分野で危機感をもたせる実践を行うと生徒の興味・関心は高まるが、一方で現行制度の良い面に目を向けることができず、「この制度は〇〇なところが悪い」などのまとめになってしまう生徒が多く見受けられた。「見いだす」、「調べる」の過程に関しては危機感を出発点にした広がりを感じたが、「深める」、「まとめあげる」に至る過程で他の複数の視点からの活動も取り入れ、最終的に生徒が複数の視点の中から自分自身で考え、まとめられるような形をとれるように研究を進めたい。
- ・地理的分野及び歴史的分野については、どの単元にもこの実践が有効であるとは限らないと考える。今回は単元の初め(例:1/5時間扱い)にこの実践を行い興味・関心を抱かせてから内容に入っていたが、最初に行うロールプレイそのものが目的になってしまい、生徒も基礎的・基本的な知識及び技能の習得よりも楽しむことが第一になってしまい、「深い学び」の実現どころか「浅い上辺だけの学び」になってしまった単元もあった。全ての単元で導入するのではなく、この実践の視点が最大限の効力を発揮する単元を精査して、「見いだす」学習だけでなくタイミングと頻度を考慮して行うことで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきたい。

当事者意識に基づく主体的・対話的で深い学びの実現

～危機感を契機に当事者意識を芽生えさせる取組の考察～

資料編



1. 実践 指導案

1 単元名 現代の民主政治―選挙の意義と私たちの政治参加―

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会科の[公民的分野]C「私たちと政治」「(2)民主政治と政治参加」において取り上げられており、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現することをねらいとしている。

小学校学習指導要領では、小学校6学年で「我が国の政治の考え方と仕組みや働きについて理解する」、「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること」の学習を行っている。中学校に入学してからは、歴史的分野で日本の各時代における政治形態に触れ、現在の日本の民主政治に至る変遷を学んだ。この知識を踏まえ、公民的分野において、現在の憲法や権利の根拠について学習し、民主政治の仕組みを知ることで、小学校で学習した内容を深めている。その中で、国民の政治参加や選挙への積極的な参加が、民主政治において重要な役割を果たしていることに気づき、本単元の学習を進める中で、政治や選挙への興味や関心が高まることを期待する。

近年、情報化やグローバル化が進み、国民一人ひとりが様々な情報を適切に選択し、政治に対する意見を持つことが大切である。本単元で政党の役割を理解し、現在の選挙の課題を考察することで、政治への興味を持つきっかけとする。とりわけ、選挙における若者の投票率の低下は深刻な課題となっている。その理由や投票率の低下が与える悪影響を多面的・多角的に考察し、公約を精査することの重要性に気づき、選挙権を持つ年齢になった際には、選挙への積極的な参加意欲が高まるようにしていきたいと考える。

(2) 生徒の実態

本学級は、男子15名、女子19名、合計34名(内サポート学級男子1名女子1名)で構成されている。誠実に学習に向かう生徒が多く、普段の授業においても、教員や級友の話に耳を傾けてノートを熱心に作成している生徒がほとんどで、自身にとって一番覚えやすい工夫をこらしたノートに仕上げている。知識を問う発問には積極的に挙手する生徒が多い一方、事象の原因を問うものや、自らの立場から考える発問に対しては消極的で、思考すること自体に前向きになれない生徒が目立つ。

そのため、各単元においてペアやグループを用いた思考活動や身近な生活との関連性を持った例の提示等を通して、より主体的に社会的事象に考えを巡らせる習慣を確立させる必要があると感じ、各分野、各単元のまとめあがる授業において、学習内容と身近な生活のつながりに着目したグループワークやロールプレイの実践を行ってきた。本単元においても、グループごとに投票率の低下によって予想される影響についてダイヤモンドランキング作成を行い、身近な暮らしを便利で豊かにするための思考活動及び、自分のグループの考えの根拠を他者に伝える工夫をすることで、内容理解だけでなく、思考力や表現力を高め、主体的に学習に向かう雰囲気を身につけることを期待する。

社会科に関しての事前調査は以下の通りである。(9月5日、31名で実施)

1 社会科に興味や関心がありますか。

- ① ある (12名) ② どちらかといえばある (11名)
③ どちらかといえはない (8名) ④ ない (0名)

2 公民的分野のどの単元に一番興味がありますか。

- ① 現代社会 (4名) ② 人権・憲法 (2名) ③ 裁判 (9名)
④ 政治 (0名) ⑤ 経済 (16名)

※2の回答理由

- ①現代社会 ・身近な物事について知ることができるから
②人権・憲法 ・歴史とのつながりが深いから
③裁判 ・裁判に興味があり、傍聴しに行きたいと思っているから
⑤経済 ・将来とても役に立つと思うから(特に企業や円の価値等)

3 公民的分野のどの単元が一番苦手ですか。

- ① 現代社会 (0名) ② 人権・憲法 (7名) ③ 裁判 (1名)
④ 政治 (23名) ⑤ 経済 (0名)

※3の回答理由

- ②人権・憲法 ・〇〇権が多く、覚えなくてはいけない単語が長いから
③裁判 ・裁判は将来の自分にあまり関係ないと思うから
④政治 ・政治について身近に感じるできないから

4 あなたは将来選挙の投票に行こうと思いますか。

- ① 必ず行く (1名) ② 予定が合えば行く (17名)
③ おそらく行かない (9名) ④ 行こうと思わない (4名)

※4の回答理由

- ①・義務だと思うから
②・行ったほうが良いと言われているから
・せっかく持っている権利だから
・少しでも投票数が多いほうが良いと思ったから
③・行くべきだとは思いますが、優先順位があまり高くないから
・あまり興味がないから ・多分投票日を忘れてしまうから
④・誰でもいいから ・面倒くさいから
・自分の一票で結果が変わることはないから

事前調査から、過半数の生徒が選挙に「必ず行く」、「予定が合えば行く」と回答している一方で、回答理由が曖昧で興味本位のものが多い。「何となく選挙に行く」のではなく「主権者としての意識を持って投票する」ためにも、本単元の学習を通して主体的に政権公約を吟味し、投票することの大切さを学び、政治に対する多面的・多角的な考察力を養うことを期待する。

(3) 指導観

本単元では、選挙や政党に関心を持ち、主体的に政治に関わっていこうとする態度を養うことに重点を置く。「現在の選挙の課題はどのようなものだろうか」ということや「主権者として政治にどのように関わっていくべきか」ということを意識させ、自分自身の現在や将来における政治との関わり方を考えさせる。

公民的分野の学習は、抽象的な概念が多く具体的なイメージをつかむことが難しく、生徒が興味や関心をもちにくい。実際、昨年度と一昨年度の2年間、生徒の選挙への関心を高めるための実践を行ってきたが、思うような関心の高まりを得ることはできなかった。

1年目は、架空の候補者の政権公約を吟味し模擬投票を行った。生徒たちは真剣に取り組み、手応えのある実践となったが、事後調査において「選挙の際に政権公約にしっかり目を通そうと思う」という項目の割合は大幅に上昇したのに対し、「将来選挙に必ず行こうと思う」の項目はほとんど変動せず低いままであった。この結果から、政権公約を吟味し投票を行うことは、毎年本校で行われている生徒会本部役員選挙と同じ過程であるため、新しい視点や立場からの活動にならず、事前調査と事後調査に差異が生まれなかったのではないかと考察した。

この実態を踏まえ、2年目は、生徒がグループごとに立候補者となり、調べ学習を行い、自分自身の政権公約を考え政見放送を行った上で模擬投票を行った。この実践を行う際、まずは「どのような政権公約をつくればこの学級内での選挙で当選することができるか」という視点で政権公約を考えさせた。政権公約を考える中で、選挙権をもつ投票者が若者しかいない学級での投票のため、当選するためには若者向けの政策を増やすべきであるということに気づくことに期待した。その気づきをもとに、「若者の投票率が高ければ、政権公約も若者向けのものが増える」や「現在の選挙では極端に若者の投票率が少ないため、若者向けの政権公約がほとんどなく、高齢者向けのものばかりになっている」等の考察に辿りつかせる。この考察から現在の選挙の課題を理解し、投票への意欲が高まると考えた。

しかし、政権公約の設定と政見放送の練習で精一杯になり、最後のまとめの時間が十分にとれず、この活動実践に対する生徒の印象がほぼ「自分で政権公約をつくって政見放送をした」ことのみになってしまい、「若者の投票率の増減によって政策自体が変化する」ことを理解した生徒が少なかった。そのため、1年目の実践と同様に、事後調査において「将来選挙に必ず行こうと思う」の項目はほとんど変動せず低いままであった。

このことから、公民的分野は現代社会を生きる上で重要な分野であるにもかかわらず、生徒は生活と切り離して考えがちであることがわかった。このような現状を改善するため、投票率が低い原因及び投票率の低さによる影響について考え、現在の選挙の課題に気付くことで選挙の仕組みについて主体的に理解しようとする意欲につながり、政治への関心が高まることを期待する。

また、主権者に必要なのは、政治に意欲的に関わろうとする態度だけではなく、メディアリテラシーの獲得や政治を多角的に精査することのできる思考力であると考え。本単元では、資料の分析・理解を通して考察力を育成する。さらに、考えるだけではなく、自己の考えを確立し、投票に行くことの大切さを深く理解することも主権者として必要な能力である。本単元では投票率の低さからくる影響の重要度について個人及びグループで考察する活動を通して、投票することの大切さに気付き、主体的に選挙に参加することへの意欲を高めることもねらいとしたい。

3 単元の目標

- ・個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して選挙や政党の仕組みについて理解できる。 (知識及び技能)
- ・公正な世論の形成や選挙等の国民の政治参加について、主権者としての政治への関わり方を多面的・多角的に考察し、その結果を表現できる。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- ・現代の政治や選挙に関する課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を身に付けようとしている。 (学びに向かう力, 人間性等)

4 指導計画 (5時間扱い)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準
見出す	1	<p>【政治と民主主義】</p> <p>民主主義とは、どのような考え方だろう。</p> <p>①民主主義の考え方について理解する。</p> <p>②直接民主制と間接民主制の相違点を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>民主主義における政治参加には、どのような意義があるだろう。</p>	<p>①民主主義の考え方を把握し、民主主義に基づく政治の大切さを理解している。 (知・技)【観察, ノート】</p> <p>②直接民主制と間接民主制それぞれの長所について考察している。 (思・判・表)【観察, ノート】</p>
見出す	1	<p>【選挙の意義と仕組み】</p> <p>選挙は、なぜ大切なのだろう。</p> <p>①選挙の原則や日本の選挙制度を、選挙の歴史、図などから読み取る。</p> <p>②小選挙区制と比例代表制の相違点を確認し、ノートにまとめる。</p>	<p>①選挙の原則や日本の選挙制度を、選挙の歴史、図などから読み取っている。 (知・技)【観察, ノート】</p> <p>②小選挙区制と比例代表制が互いの長所と短所を補完し、並立制となっていることを理解している。 (知・技)【観察, ノート】</p>
自分で取り組む	1	<p>【政党と世論】</p> <p>民主政治において政党の果たす役割は何だろう。</p> <p>①政党の意義と種類、民主政治における政党の役割について理解する。</p> <p>②タブレットで各政党の政権公約について調べる。</p>	<p>①政党の結成により政治が円滑に行われることを理解している。 (知・技)【観察, ノート】</p> <p>②各政党の政権公約を意欲的に調べ、公約について自分の考えを持つことができる。 (態度)【観察, 発表, ワークシート】</p>

広げ深める	1	<p>【選挙の課題と私たちの政治参加】</p> <p>現在の日本の選挙にはどのような課題があるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の日本の選挙の課題と、その原因について考察する。 ・現在の日本の選挙の課題の解決策について、様々な視点を考慮し、実現性のある方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の日本の選挙の課題と、その原因について理解している。 <p>(知・技)【観察, 発表, ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の日本の選挙の課題の解決策について、様々な視点を考慮し、実現性のある方法を考えることができる。 <p>(思・判・表)【観察, 発表, ノート】</p>
まとめあげる	1 (本時)	<p>【投票率の低さによる影響】</p> <p>投票率の低さによって、どのような影響が起こるだろう。</p> <p>①投票率が低いことによる影響について理解し、ダイヤモンドランキングを作成する。</p> <p>②投票率の低下による影響についてのまとめを受けて、感じたこと又は今後どうしていくべきかについてワークシートに記入する。</p>	<p>①資料が意味することについて考察を行い、ダイヤモンドランキングを作成し、自己の考えをまとめることができる。</p> <p>(思・判・表)【観察, ワークシート】</p> <p>②投票率の低下による影響についてのまとめから、投票することの大切さに気づき、主体的に選挙に参加することへの意欲を高めている。</p> <p>(態度)【発表, ワークシート】</p>

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・資料が意味することについて考察を行い、ダイヤモンドランキングを作成し、自己の考えをまとめることができる。
(思考力, 判断力, 表現力等)
- ・投票率の低下による影響についてのまとめから、投票することの大切さに気づき、主体的に選挙に参加することへの意欲を高めている。
(学びに向かう力, 人間性等)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>【見いだす】</p> <p>1 学習課題をつかむ 現在の日本の選挙の課題を再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一票の格差 ・投票率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四街道市議会議員選挙の投票率の変遷資料を提示し、現在の投票率が30%ほどしかないことや、以前より投票率が下がってきていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ ・パワーポイント資料 ・四街道市議会議員選挙の投票率の変遷
	<p>【学習課題】</p> <p>「投票率の低さによって、どのような影響が起こるだろう。」</p>		

5	<p>【自分で取り組む】</p> <p>2 学習課題に対する予想をたてるの低さによる影響を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コネがある人が当選しやすい ・一票の格差が更に加速する ・政治への関心が薄れる ・当選票数が少なくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の予想をワークシートにまとめる。 ・班隊形をつくり、4～5人のグループでお互いの予想を共有する。 ・机間指導を行い、取り組めていない生徒にヒントを出す。 ・3名程度指名し、発表させる。 ・良い影響はないか問いかけ、考察の深まりを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
15	<p>【広げ深める】</p> <p>3 資料をもとに、投票率が低いことによる影響を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一票の格差 ②政治に無関心となる ③当選票数が少ない ④世論が反映されない ⑤当選者の質が低くなる ⑥若者向けの政策が減少する 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の提示の前にグループの隊形から元の座席の位置に戻すよう指示を出す。 ・6つの影響について各々資料を提示しつつ説明し、黒板に見出しを貼る。 ・資料の説明をしている最中の生徒の様子を見つつ、問いかけを行い、理解を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> ②街頭インタビュー映像 ③くじびきのよる当選者決定ニュース映像 ④世論調査資料 ⑤市議会でのやりとり映像 ⑥動画「若者よ選挙に行くな」
5	<p>4 6つの影響について考察を行い、自分たちにとって一番与える影響が大きいものについて、個人でダイヤモンドランキングを作成し、一番上にきた項目の理由もワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、手が止まっている生徒に声をかける。 ○資料が意味することについて考察を行い、ダイヤモンドランキングを作成し、自己の考えをまとめることができる。 <p>(思・判・表)【観察, ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
8	<p>5 グループで意見交換を行い、自分たちにとって一番与える影響が大きいものについて、グループのダイヤモンドランキングを作成し、黒板に貼り、代表者が概要と一番上にきた項目の理由を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で司会進行を決め、スムーズにグループとしてのダイヤモンドランキングを作成できるように指示を出す。 ・グループ内でまず初めに各々が自分のランキングの概要と一番上にきた項目の理由を発表するよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・各グループが黒板に貼るための大きなダイヤモンドランキングの枠を配付

5	<p>【まとめあげる】</p> <p>6 学習課題に対するまとめを自分の言葉でワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、手が止まっている生徒に声をかける。 ・3名程度指名し、発表させる。 	・ワークシート
<p>投票率が低いままだと (若者向けの政策がなくなり、若者が生活しにくい社会になってしまったり、世論が政治に反映されなくなってしまうたりする)</p>			
7	<p>7 学習課題に対するまとめをうけて、感じたこと又は今後どうしていくべきかについてワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙に行くことが大切 ・このままの投票率ではまずい ・若者こそ選挙に行かなければならない ・将来絶対選挙に行こうと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループでお互いの予想を共有する。 ・3名程度指名し、発表させる。 <p>○投票率の低下による影響についてのまとめから、投票することの大切さに気づき、主体的に選挙に参加することへの意欲を高めている。</p> <p>(態度)【発表、ワークシート】</p>	・ワークシート

(3) 板書計画

11/17 投票率の低さによって、どのような影響が起ころう。

<予想>

- ・コネがある人が当選しやすい
- ・政治への関心が薄れる。
- ・当選票数が少なくなる。

<影響>

- ①一票の格差
- ②政治に無関心となる
- ③当選票数が少ない
- ④世論が反映されない
- ⑤当選者の質が低くなる
- ⑥若者向けの政策が減少する

投票率が低いままだと
(若者向けの政策がなくなり、若者が生活しにくい社会になってしまったり、世論が政治に反映されなくなってしまうたりする。)

投票率の低さによって、どのような影響が起こるだろう。

○予想○

- | | |
|----------------|---------------|
| ・コネがある人が当選しやすい | ・一票の格差が更に加速する |
| ・政治への関心が薄れる。 | ・当選票数が少なくなる。 |

○影響

① 一票の格差	② 政治に無関心
③ 当選票数が少ない	④ 世論が反映されない
⑤ 当選者の質が低くなる	⑥ 若者向けの政策が減る

○ダイヤモンドランキング

<p>・個人</p> <p>一番上は： 理由</p>	<p>・グループ</p> <p>一番上は： 理由</p>
--------------------------------	----------------------------------

まとめ 投票率が低いままだと

若者向けの政策がなくなり、若者が生活しにくい社会になってしまったり、世論が政治に反映されなくなってしまうりする。

☆感じたこと または 今後どうしていくべきか



○意欲あり→意欲あり

- ① 必ず行く
- ② 予定が合えば行く
- ③ おそらく行かない
- ④ 行こうと思わない

理由 選挙の投票権があるなど「行かないほうがいいのかな」と思っている



・自分が投票権を持たず 必ず行かないと、若者の意見、世論が無視されている感じが怖いし、いやなので、必ず行きたいと思えるようになりました。



○意欲なし→意欲なし

- ① 必ず行く
- ② 予定が合えば行く
- ③ おそらく行かない
- ④ 行こうと思わない

理由 筋の一致が変なほど思えないし、若者のいいことは時間をかけてみる



若者が選挙に来ることも変なほど思えないし、若者のいいことは時間をかけてみる



- ① 必ず行く
- ② 予定が合えば行く
- ③ おそらく行かない
- ④ 行こうと思わない

理由 将来選挙があるのかあまりわからないから。



① 当選票数の低下
 ② 世論が無視される
 ③ 政治家の質
 ④ 若者向けの政策がなくなる

どのような影響があるかはわからないけれど、それでは選挙に行く気にはあまりなれません。




2. 実践前後でも生徒の変化

○意欲なし→意欲あり

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ① 必ず行く | ② 予定が合えば行く |
| ③ <input type="radio"/> おそらく行かない | ④ <input type="radio"/> 行こうと思わない |

理由
選挙に行きたくないから。自分が投票しなくていいから。


・選挙に行こうと思った。
・さらに、行くだけでなく投票する人まじりか
り考えようと思った。



- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ① 必ず行く | ② 予定が合えば行く |
| ③ <input type="radio"/> おそらく行かない | ④ <input type="radio"/> 行こうと思わない |

理由
選挙の場所が遠いから行かない。

投票の場所は遠いから行かない。
選挙の場所が遠いから行かない。



- | | |
|----------------------------------|---|
| ① 必ず行く | ② 予定が合えば行く |
| ③ <input type="radio"/> おそらく行かない | ④ <input checked="" type="radio"/> 行こうと思わない |

理由
選挙の場所が遠いから行かない。
自分の意思で選挙に行きたい。

選挙の事がよくわかった。若者たちのために選挙は必要だと思った。

